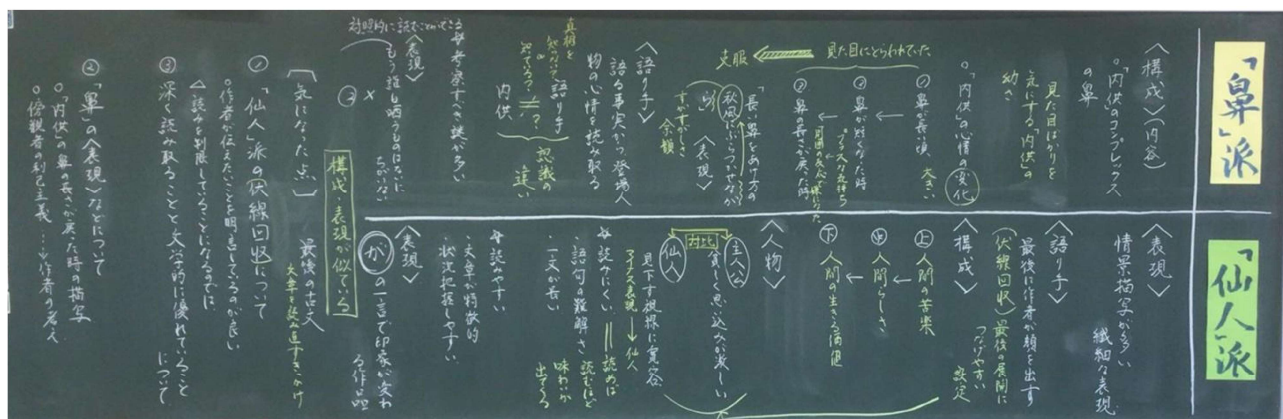


授業の成果と課題

1 授業の実際

(1) 板書



(2) 生徒の学びの実際（OPPシートの記述から抜粋）

- 「仙人」派である私たちの意見が「客観的で説得力があった」とおっしゃった清田先生のご講評は、大変ありがたかった。ただし、「鼻」派の意見も納得のいくものだった。特に「内供」の心情の変化についての分析は見事だった。
- 話し合いを終えた今でも、私は「鼻」が優れていると思う。「内供」が抱えている感情は、現代を生きる私たちのコンプレックスや悩みと重なるように感じたからである。この作品を通して、「内供」の心情を追いながら、自分の内面と向き合うことができた。
- 「鼻」派と「仙人」派で教科書にふさわしいと主張する点が異なっているように感じた。「鼻」派の人は、考えられる点が多いという点を主張していた。一方「仙人」派の人は、情景描写や語り手の工夫が優れている点を主張していた。異なる観点で主張していると気付いた時に、2時間目に話し合った評価規準に戻るべきだったと感じた。
- 本音を言うと、「鼻」も「仙人」のどちらも優れた作品だと思う。私としては、二つの優れた作品を読み比べることに意義があったと思うので、今後も三年生の授業で、両作品を取り上げた授業をぜひしてほしい。どちらの作品からもたくさんのことを学ぶことができた。

3 成果（○）と課題（●）

(1) PBL型の授業は、生徒がこれまでの学びを生かし、主体的に読み深めたり評価したりするものとなっていたか。

- 単元後、「PBL型の授業を通して、あなたはこれまでの学びを生かし、主体的に読み深めたり評価したりすることができましたか」と質問したところ、94%の生徒が肯定的な回答をした。
- 肯定的な回答をした生徒たちは、「自分で仮説を立てて検証する」という授業展開があったことが、主体的な読み深めや評価につながったと感じていた。
- 主体的な読み深めや評価ができなかった生徒は、その理由を「どちらの作品にするか悩んでいたため、仮説を立てにくかった」と書いていた。これは、教師の問題シナリオ設定（本単元におけるパフォーマンス課題の設定）に関する課題であると言える。

(2) OPPシート「学びの羅針盤」は、自分の学びを振り返り、次の学びに生かすものとなっていたか。

- 単元後、『学びの羅針盤』を見て、自分の学びの過程を振り返ったり、次の学びにつなげたりすることができましたか」と質問したところ、90%の生徒が肯定的な回答をした。
- 肯定的な回答をした生徒たちは、「自分の考えの変化が可視化できるのが良かった」「自分が立てた仮説や検証の流れを見ることができるので、次に考えたいことや学びたいことが明確だった」「単元を通して振り返る中で、自分の中の読みの変容、友達の意見に影響を受けた読みの変容が感じられた」などと答えた。
- 単元の実施が受験期と重なったため、OPPシートに空欄箇所のある生徒がいた。せっかく授業支援アプリ内で作成しているので、欠席した時間の学びをOPPシート上で補う工夫についても検討したい。